

水環境勉強会のこれまでの活動と今後の展望

Current Activities and Future Prospects of Water-Environment Study Group (WESG)

田中 幸夫*, 永吉 洋之**, 山本 俊太郎***

Yukio TANAKA, Hiroyuki Nagayoshi, Shuntaro Yamamoto

1. はじめに

(1) 会設立の背景

現在、水は世界的な重要関心事項の一つとなっている。1977年に国連主催の初の水会議が開催されて以来、水問題の重要性は年々高まっており、1997年以降は定期的（3年ごと）に世界水フォーラムが開催されるようになり、今日に至っている。

水問題の持つ大きな特徴の一つとしてその複合性が挙げられる。水の消費部門は大きく分けて農業、工業、都市に分けられ、それに加え水は生態系への影響も大きい。また、各部門内の問題においても自然科学、工学、農学、社会科学など多様なアプローチを要する。

一方で水問題解決の担い手の一つである大学に目を向けてみると、様々な部門において水に関する研究が行われているが、相互間の連携はまだ限定的であり、情報共有が満足に行われておらず、その潜在的な資源が十分に活かされているとは言えない。

(2) 会の設立と目的

上述のような状況の下、2004年1月に東京大学の学生有志によって水環境勉強会 (Water-Environment Study Group: 以下 WESG) が設立された。この会は『水』をキーワードに、i) 他の学問領域への理解を深め、ii) 自分の領域に関して部外者からの意見を聞くことで自己の研究をさらに洗練し、iii) 人的なネットワークの構築を促進する、などを通して個々の参加者の能力を高めるとともに潜在性を引き出し、ひいては学問領域横断型の問題といえる水問題の解決への貢献を行うことを目的としている。

2. 会の概要

会のメンバー構成を図1に示す。東京大学関係者が中心(78%)ではあるが、他大学や研究機関、企業・官公庁からの参加も増えつつある。メンバーの多数が学融合系の研究科所属であるため（東京大学では新領域創成科学研究科が代表的）、学生の専門分野も政治、経済、工学、理学など様々である。また、WESGは専門的な会であるため、院生が中心となっているが、今後は東大水フォーラム（後述）と提携した広報活動により学部生への参加も積極的に呼びかける予定である。

WESGは学生主体の団体であるため事務局のようなものは常設していないが、参加者の一部（2006年3月現在8名）が運営委員会として組織の企画・運営を行っている。基本的な連絡や情報交換はメーリングリストを介して行われ、勉強会やその他イベントは東京大学本郷キャンパスで行われる。

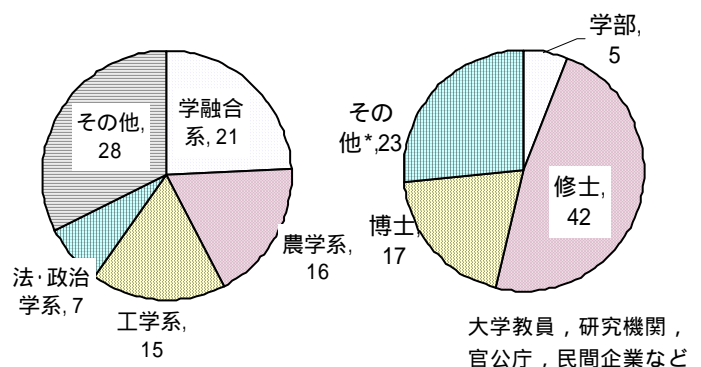


図1. WESGメンバー構成 (全87名)

3. これまでの活動

(1) 定例勉強会

本勉強会の中心となる活動であり、月1回

* 東京大学大学院農学生命科学研究科 Graduate School of Agricultural and Life Sciences, Univ. of Tokyo

** 東京大学大学院新領域創成科学研究科 Graduate School of Frontier Sciences, Univ. of Tokyo

*** 東京大学公共政策大学院 Graduate School of Public Policy, Univ. of Tokyo

のペースで開催されている。勉強会は、まず初めに勉強会員による研究発表が行われ、続いてフロアとの質疑応答、最後に勉強会代表者による総括という形で進行される。多様な学問的バックグラウンドを有する勉強会員が専門発表を行うことによって、発表者、聴講者双方が水問題を多角的に分析する視点を習得することを目指している。

(2) スタディーツアー

上下水道施設や用水路等、利水・治水の現場を見学するツアーを毎年1回催行している。現場見学に加えて関係者から話を聞き、水問題に対する捉え方や実際の取り組みについて知見を深めることを目的としている。昨年度は、利根大堰と見沼代用水へ行き、利根川水系の河川管理や、農業用水と都市用水の競合について農業用水管理者の見解を知ることができた。

(3) 東大水フォーラムとの連携

東大水フォーラムは東京大学に在籍する水分野の研究者によるネットワークであり、生産技術研究所の沖大幹助教授、工学系研究科の滝沢智助教授、農学生命科学研究科の溝口勝助教授らが中心となって2005年6月に設立された。近年の水分野における問題の累積に対し、東大に在籍する研究者が互いの研究分野を活かしながら統一かつ有効な提言を前向きにしていくこと、および独法化を背景として「東京大学」という研究機関の水分野におけるプレゼンスを高めていくことを目的としている。東大水フォーラムの会合には本勉強会のメンバーも参加し、研究発表を拝聴するだけでなく、東大水フォーラムの方向性について勉強会から意見・要望を出すといった、双方向からの活発な交流が行われている。

(4) 他勉強会との連携

本勉強会と同じく AGS UTSC¹ に所属している他の勉強会(気候変動勉強会、サステナビリティ教育勉強会)との交流も活発である。具体的には共同企画の実施や定例勉強会情報

の共有を行っている。3つの勉強会は分野こそ異なるものの、地球環境のサステナビリティについて考えるという点で共通しており、今後もさらに連携を深めていく。

(5) 世界水フォーラムへの学生派遣

2006年3月16日から22日までメキシコで開催された第4回世界水フォーラムに、本勉強会から3名を派遣して世界の水分野に対する政策や研究についての情報を収集した。参加者による報告会では、フォーラムの様子や収集した情報・知見に関する報告が行われ、水問題の国際的な潮流に対する勉強会員の認識が深められた。

4. 考察および今後の展望

以上、WESGの概略とこれまでの活動について説明した。設立から2年以上が経過し、当初6人であった会員数も100人近くにまで増え、定例勉強会も22回を重ねるまでになった。しかし、学問領域横断を掲げるWESGではあるが、現状では学融合研究科や工学・農学といった比較的「学融合を好む」傾向にある参加者が大多数を占めており、文学、経済学、理学、といった古典的な学問領域からの参加は決して多いとは言えない。今後はこういった参加者をどう取り込むかが鍵となる。また先述の通り今後は学部生の勧誘にも積極的に取り組み、教官・院生と学部生の間をつなぐ橋渡しの機能も強化する狙いである。

また、WESGは参加者を東京大学に限定していない。WESGの活動にご興味を持たれた方、あるいは提言のある方は筆者(田中: aa47068@mail.ecc.u-tokyo.ac.jp)までご連絡いただければ幸いです。

¹ AGS(Alliance for Global Sustainability)の東京大学における学生部(Student Community: SC)。AGSは地球持続性をキーワードとした国際研究ネットワークとして1994年に東京大学、MIT、ETHZにより設立された、昨年設立されたサステナビリティ学連携研究機構(IR3S)の母体ともいえる組織。WESGもまたAGS UTSCに所属している。